

琉球大学学術リポジトリ

写真や図を中心にみる琉球の農作物主要病害虫 (26)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田盛, 正雄, Tamori, Masao メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/21063

写真や図を中心にみる

琉球の農作物主要病害虫 (26)

サツマイモネコブセンチュウ

形態： 雄は長さ1,200~1,900ミクロン、幅30~36ミクロンで細長く、雌は長さ400~900ミクロン、幅270~900ミクロンでナシあるいはレモンの形に似ていて、口の部分は細い。卵は長さ65~130ミクロン、幅30~52ミクロンのだ円形である。

加害： サツマイモ、ウリ類、ナス、トマトなどのナス科作物、アブラナ科作物など多くの作物に寄生する。この虫は、卵からかえって成虫になるまでに4回脱皮する。卵の中で1回脱皮して2期幼虫となり、卵の外に出て土壤中をはいまわり、宿主植物の根に侵入して1定の場所に定着して2回目の脱皮をして第3期幼虫になり、雄になるものはからの中に細長くなって折曲り、ここで3回目の脱皮をして第4期の幼虫となり、そのからの中で4回目の脱皮をして成虫になりからを破って土中あるいは近くの根の組織内に雌を求めて移動する。雌になるものはますます肥満して体はトックリ状になり、3、4回目の脱皮をして成虫になる。ネコブセンチュウが寄生すると、その口のまわりの細胞膜がとけて数個の巨大細胞ができ、その周囲の細胞はセンチュウの食道膜から分泌されるホルモンによって急に分裂してこぶをつくる。

防除：

1. 有機質の肥料を施して土壌の性質をよくする
1. 連作をさける。
1. 植え付け前10~20日にD—DあるいはEDBを10アールあたり20~50リットル、DBCP(80%)乳剤1.5リットルを土壌に注入するか、DBCP(20%)粒剤10~12kgを施す。
1. 他の病害防除をかねてクロールピクリン(80~97%)を10アールあたり20~31リットル施すのもよい。

ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)

形態： 成虫は、灰かっ色で前はねに灰白色の

波状の2本の線が横に走り、その間にじん臓の形をした黒色の紋が1個ある。後はねは全体灰白色。体長は約7ミリメートル、はねの開帳は16ミリメートル内外の小さながである。卵は、扁平だ円形、黄白色あるいは赤色で、1~2ミリメートル。幼虫は、頭が黒色胸部は淡黄色あるいは黄かっ色で体長約14ミリメートル。さなぎは、黄かっ色あるいはかっ色で体長約7ミリメートル。白色のうすいまゆの中にある。

加害： 年5~6回発生し、特に秋まき野菜の被害は大きい。幼虫はアブラナ科のとくに若い作物の若い葉をつづりあわせ、その中で芽を食害し、加害のいちじるしいときは作物は黄色に変わって枯れる。

防除：

1. DDT乳剤(20%)の500~1,000倍液を本葉発生初期から2~3回散布する。
1. EPN乳剤(45%)の1,500倍液を上と同じ方法で散布する。
1. マラソン乳剤(50%)の1,000~2,000倍液を上と同じ方法で散布する。

写真および図説：

A サツマイモネコブセンチュウ

1. 卵
2. 第1期幼虫
3. 地中に出た第2期幼虫
4. 第3期幼虫
5. 第4期幼虫(雄)
6. 成熟した雄
7. 成熟した雌
8. 卵塊

B サツマイモネコブセンチュウにおかされたキュウリの根

C ハイマダラノメイガ

D ハイマダラノメイガの加害をうけたハクサイ

(田盛正雄)

